



道しるべ

道德通信

上尾市立太平中学校
道德通信 第3号
令和7年7月16日(水)
発行者 校長 宮田 純生



太平中に駐車していると、鳥の糞を落とされるので、非常に困っています。

1 学年職員

洗車をこまめにしないといけない状況（ひどい時はリアルスプラトゥーン状態）なので、洗車した時にいつも思うことを書きます。

まず、なぜ、こまめに洗車をしているのかは、題名の通りです。それに加えて、私が約10年前に勤務していた時の学校長が「車が汚い人は、運転も荒い。」と、ため息混じりに当時の教頭へ漏らしていました。その話を聞いていた私は、絶対そうとは言いきれないが、妙に納得してしまったのも理由の一つです。洗車をしていると、磨いても落ちない傷や汚れがあります。最初は完璧ではない状態が許せず、どんな手段を使ってでもと躍起になっていましたが、本気で向き合えば向き合うほど、細かい傷まで目に入ってしまうもので、私自身の気持ちが傷だらけになりました。しかし、ある時、「運転している限り、ずっと綺麗な状態の車なんて存在しない。落とせない傷も含めて、この車なんだな」と受け入れ、完璧ではない状態を許すことにしました。開き直りではありますが、考え方一つで、気持ちがとても楽になったのと同時に、車への愛情が芽生えた瞬間でもありました。今では洗車をする度、「もっとこの車を大切に、車の為にも優しい運転をしよう」と思えるようになりました。

車も人も時間が経つにつれて、完璧な状態ではいることは不可能です。また、何かにチャレンジすればするほどに、自分の理想と現実とのギャップに悩んだり、許せなかったりと、顔が下を向いてしまうこともあります。それでも、今のありのままを受け入れてしまえば、あとは、前に進むだけです。そうしたら、下を向いていた顔も自然と上がるものです。そして、弱みや欠点などの不完全さは誰にでもあって、むしろそれがなくなってしまうたら、可愛さや、その人らしさも失われてしまうのではないかと思います。私自身、嫌な部分や弱みはあります。実際、自分の理想とは大きくかけ離れていますが、それも含めて、ありのままの家族の姿が私にとっては可愛らしく、愛おしいものです。

当時の校長の言葉を思い出しながら、私は様々な考えを巡らせて、洗車にいそしむわけですが、誰がどこで、どんな言葉を言ったことが、どう解釈されて、どんな影響を与えるのか、本当にわからないものです。捉え方、考え方次第で日常はもっと明るく、楽しく、前向きになれる可能性を秘めていることに間違いないと確信しています。逆も然り、、、結局、自分次第なんだなと洗車をしているといつも思います。

余談ですが、太平中に赴任してからフロントガラスに鳥の糞がつくという、大きなハンデを負ってはいるものの、今現在、私は無事故無違反のゴールド免許です。

「青春」の次は？

2 学年職員

青春	せいしゅん	10代後半から20代前半の、明るく希望にもえる時期。
朱夏	しゅか	30代から40代で、人生を愉（たの）しみ謳歌（おうか）する時期。
白秋	はくしゅう	50代から65歳で、人生の実りを収穫する時期。
玄冬	げんとう	60代後半以降で、次の春を待つ次世代に知識や願いを残す時期。

（参照：「辞典」）

上の表は、人生を四季で例えた言葉です。みなさんがよく知っている言葉に「青春」がありますね。まさに今、太平中学校の生徒であるみなさんは「青春」という季節を生きようとしています。

ところで、その後の言葉を知っていますか？「青春」の次は、「朱夏」。「朱夏」の次は「白秋」。「白秋」の次は「玄冬」です。この考え方は古代中国の思想に基づいています。昨今は「人生100年時代」と言われるので、年齢については多少個人差が生じるのかもしれませんが、人の一生を季節で例えています。

季節の様子を想像した時、自分の将来の姿を想像できるでしょうか。

現代社会に生きる私たちは目の前の情報で日々を過ごすようになりましたが、1日の中に季節との関りを取り入れることで、自分が今人生のどの季節にいるのかを感じやすくなるのではないかと考えています。時間も命も有限だからこそ、今を生きることを大切にしたい。今、このひと時を大切にすることは、自分の将来を輝かせてくれると思います。失敗も恐れず、エネルギーに満ち溢れているみんなには挑戦して欲しいです。なぜならば、その季節もいずれ変化する時が必ずやってくるからです。

大切な記憶と言葉

3学年職員

「失敗を恐れるな。挑戦しないことを恐れる。」

これは、かつて私が女子バスケットボール部の顧問を務めていたときにチームのみんながよく言っていた言葉です。大会前には、部員がこの言葉を書いて、体育館に掲示物を作ってくれたこともありました。今こうして書くと少しむずむずする感じかもしれませんが、心に留めておきたい言葉だとも思います。最近、この言葉が浮かぶ出来事がありました。

私には幼い娘がおり、毎週、音楽教室に習い事に行っています。趣味がてら親子で行き始め、あっという間に3年目に突入しています。本人は楽しく続けている様子ですが、成長とともに「緊張」や人前に出る「恥ずかしさ」という感情が出てきたようです。レッスン内容も少しレベルアップしてきて、先月末から「ミニ発表会」として、みんなの前で鍵盤でワンプレーズ弾いてみようというものが始まりました。その場で一人ずつ弾くようなことは大丈夫なようですが、一人で前に出るというのはなかなか勇気がいるようです。そんなとき、私は、どんな言葉をかけてあげるのが良いのだろうと悩みます。「そうだね、緊張するよね」と共感しつつも、「大丈夫だよ、上手にできているから、自信もって!」と励ましたり、「そのドキドキを一步踏み出したら、すごく楽しくなるはずだよ!」と尝试してみたり…。親バカかもしれませんが、できるのに、やらないのはもったいないと思うしてしまうのです。

皆さんだったら、身近な人が緊張したり、頑張りどころに立たされたりしているとき、どんな言葉をかけるでしょうか?または、自分が頑張りどころに立たされているときに、どんな言葉をかけてほしいですか?

もうすぐ1学期が終わります。夏休みが過ぎれば、あっという間に2学期です。2学期は新人戦や体育祭、合唱祭など一人ひとりが頑張らなくてはならない場面がより増えるでしょう。きっと「頑張り!」と声をかけたり、かけられたりする機会も増えます。そんなとき、あなたはその言葉をどう受け止めるでしょうか。嬉しいですか?それとも、少し負担に感じてしまいそうですか?時と場合によることもきっとありますよね。

ただ、私は人から応援されるというのも一つの立派な才能だと思います。冒頭の言葉とあわせて当時チームでよく言っていた言葉があります。

「応援されるチームになろう。」

あなたには応援したい人、いつも応援してくれる人はいますか。



『もしもことばに形や色がついていたなら・・・』

にじいろ学級担当

先日、にじいろ学級の道徳の授業である絵本を使って授業をしました。『ことばのかたち』（著者：おーなり由子 講談社発行）という絵本です。冒頭、「もしも 話すことばが目に見えたら どんなかたちをしているだろう」と色や花に例え、とても明るいタッチで描かれた挿絵と共に読者に投げかけ、たくさんのかたちを考えるきっかけをくれる一冊になっています。この絵本を読み終えた時、たくさんあった話の中で、どこが一番心に残っているか聞くと、全員一致であるページを挙げました。そのページの文をここで紹介したいと思います。

たとえば――

だれかを傷つける ことばが 針のかたちを しているとしたら どうだろう
話すたびに とがった針が 口から発射されて 相手にささるのが 見えたとしたら

目の前で つきささる針
思いもよらないことばが 相手に刺さるのを 見ることになるかもしれない

刺さった場所や 血のにじんだ傷口まで 見えたとしたら
言葉の使い方は 変わるだろうか――

私もこのページは挿絵の衝撃と共に、心に深く残り考えさせられたページでした。にじいろではこの最後の一文の問いかけが、心に深く残ったようです。実際、自分たちが発している言葉が色や形となって目に見えるわけではありませんので想像するしかありませんが、みなさんはこの問いかけにどう答えますか。目に見えたら、言葉の使い方は変わりますか? なぜ「変わる」と思うのですか?

変わる、と思った人はぜひその心を大切に、変えてください。今、あなたの学年、クラス、友達同士の会話でつかわれることばは、何色でどんな形をしていると思いますか。1学期をふり返る意味でも、考えてみませんか。